

大学生と地域住民の協働による地域連携実践とその教育的可能性



【千葉キャンパス】健康医療スポーツ学部 リハビリテーション学科
作業療法コース 講師

齊藤 一実 Saito Hitomi

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)



キーワード：地域連携・地域課題理解・作業療法教育・大学生・地域住民・
孤独孤立対策・高齢者・予防・多世代交流

研究の概要

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を
SDGs 目標 11：住み続けられるまちづくりを

本研究は、大学生と地域住民をつなぐ地域連携の実践を通して、地域課題への気づきを促し、地域共生社会の実現に向けた可能性を探るものである。

市原市の集合住宅地をフィールドに、作業療法学生が地域を訪問し、住民とともに地域課題を考える授業を展開している。地区踏査や住民との対話、地域イベントへの参加などを通して、学生は「人の暮らしを知ること」や「地域コミュニティの大切さを理解すること」を体感的に学んでいる。

これらの体験を通じて、学生は、生活環境、孤独・孤立、交通の不便さ等のさまざまな地域課題を「自分ごと」として捉える視点を獲得する。また、地域住民にとっても、若い世代との交流が新たな気づきや社会的つながりの再構築につながっている。

本研究は、地域連携教育および作業療法教育の一つの実践例として、地域課題理解を促進する学習環境のデザインとその効果の検証を目的とする。今後は、自治体との協働による孤独・孤立対策や地域包括ケアの推進、地域住民の健康観の変化など、地域社会への実装可能性をさらに検討していく。

実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

本研究は、地域住民と大学生が協働して地域課題を考える実践を通じて、地域の孤独・孤立、交通、生活環境などの課題を可視化し、地域共生社会の実現に向けたアプローチを検討するものである。地域をフィールドとした学びは、学生が将来、医療・福祉領域で働く専門職として地域を理解し支えるための基盤づくりにも寄与している。

自治体にとっては、地域課題の把握や住民の声の収集、若い世代との交流機会の創出につながり、孤独・孤立対策や地域包括ケアの推進に寄与する。企業にとっても、地域貢献活動やコミュニティ支援の取り組みとして連携しやすいテーマである。

協力可能事項として、地域調査、住民との対話の場づくり、地域イベントの企画・運営支援、学生による地域課題の整理・提案などが挙げられる。協力希望事項として、自治体・企業との共同プロジェクトの実施、地域住民との交流機会の提供、地域課題に関する情報共有、孤独・孤立対策やコミュニティ支援に関する連携を求めている。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

【学会発表】

- ・「継続的地域訪問を組み込んだ地域作業療法学実習の試み」
- ・「The Community as a Treasure Trove of Learning - Efforts of Occupational Therapy Students in Understanding the Local Area -」